

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-114326

(P2001-114326A)

(43) 公開日 平成13年4月24日 (2001.4.24)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テ-マ-ト* (参考)
B 6 5 D 47/36		B 6 5 D 47/36	H
A 4 5 D 34/00	5 1 0	A 4 5 D 34/00	5 1 0 A

審査請求 有 請求項の数14 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2000-311610(P2000-311610)

(22) 出願日 平成12年10月12日 (2000.10.12)

(31) 優先権主張番号 9 9 1 2 7 6 2

(32) 優先日 平成11年10月13日 (1999.10.13)

(33) 優先権主張国 フランス (F R)

(71) 出願人 592163240

ロレアル

フランス国, 75008・パリ, リユ・ロイアル, 14

(72) 発明者 ド ラフオルカド ヴァンサン

フランス国 78120 ランブイレ, アレー  
デ ブルーエ 3

(74) 代理人 100066452

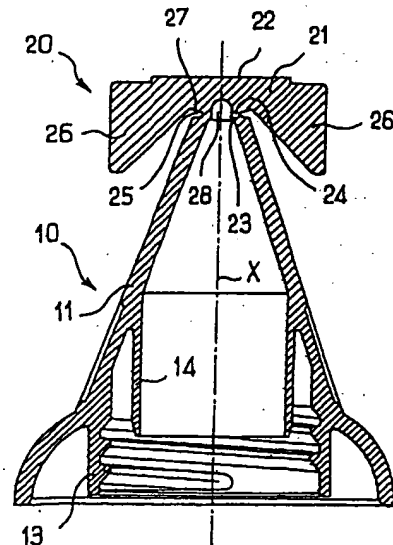
弁理士 八木田 茂 (外2名)

(54) 【発明の名称】 破断端部分を備えたディスペンサーエンドピース

(57) 【要約】

【課題】容易に開放できかつ比較的大量の製品を収納する容器に装着でき、輸送中に偶然に切り離される危険のない破断端部分を備えたディスペンサーエンドピースを提供する。

【解決手段】本発明は、破断端部分を備えたディスペンサーエンドピースに関するものであり、破断端部分は、第1の動きで取外しさせる第1のグリップ手段と、第1の動きと異なる第2の動きで取外しさせる第2のグリップ手段とを備えている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】破断端部分を備えたディスペンサーエンドピース(10; 10'; 10'')において、上記破断端部分が、第1の動きで取外しさせる第1のグリップ手段と、第1の動きと異なる第2の動きで取外しさせる第2のグリップ手段とを備えていることを特徴とするディスペンサーエンドピース。

【請求項2】破断端部分(20; 20')が軸線(X)のまわりの回転に応じて破断でき、上記破断端部分の少なくとも一側部分(26; 26'; 26'')は、使用者が指で破断端部分をしっかりと握れるように、少なくとも部分的に、破断端部分の脆弱領域(24)のレベルの下方へのび、ディスペンサーエンドピースの軸線のまわりで回すことができ、また上記破断端部分の横方向部分は、使用者が指で十分にしっかりと握れるようにディスペンサーエンドピースの軸線にほぼ垂直にのび、ディスペンサーエンドピースの軸線に垂直な軸線のまわりでの傾き運動により、破断端部分を切り離すことができることを特徴とする請求項1に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項3】上記破断端部分の側部分(26; 26'; 26'')が、少なくとも部分的に、破断端部分の脆弱領域(24)のレベルの下方へのびていることを特徴とする請求項2に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項4】上記破断端部分の側部分が、横方向部分(21)に接続され、しかも全体が上記横方向部分の頂面(22)のレベルより下方へのびていることを特徴とする請求項2又は3に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項5】上記横方向部分の頂面(22)がほぼ平面であることを特徴とする請求項2～4のいずれか一項に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項6】上記横方向部分の頂面(32'')が僅かに外側に凸状であることを特徴とする請求項2～4のいずれか一項に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項7】上記横方向部分(21; 21'')がディスク型であることを特徴とする請求項2～6のいずれか一項に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項8】上記横方向部分(21; 21'')が、エンドピースの軸線上で見て、エンドピースの本体の頂端部より広く、好ましくは少なくとも三倍広いことを特徴とする請求項2～7のいずれか一項に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項9】上記各側部分の頂縁部(32'')が外方且つ下方へ傾斜していることを特徴とする請求項2～8のいずれか一項に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項10】上記破断端部分の二つの直径上相対したフィン(26; 26'; 26'')が接合平面に配置され、上記フィンがエンドピースの本体(11)の各側に少なくとも部分的にのびていることを特徴とする請求項

2～9のいずれか一項に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項11】上記破断端部分(20; 20'; 20'')がエンドピースの本体(11)と共に環状溝(25)を画定していることを特徴とする請求項2～10のいずれか一項に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項12】上記破断端部分の一つ又は複数の側部分(26')が、破断可能な材料のブリッジ(30)によってエンドピースの本体に接続されていることを特徴とする請求項2～11のいずれか一項に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項13】ポリプロピレンで構成されていることを特徴とする請求項2～12のいずれか一項に記載のディスペンサーエンドピース。

【請求項14】請求項2～13のいずれか一項に記載のディスペンサーエンドピースを備えた容器。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、破断端部分を備えたディスペンサーエンドピースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】エンドピースの軸線のまわりで回転させることによりエンドピースの本体から端部分を切り離すようにした種々のディスペンサーエンドピースが知られている。

【0003】このようなディスペンサーエンドピースにおいては、端部分は脆弱領域全体にわたってエンドピースの本体と一直線状にのびている。

【0004】これらのディスペンサーエンドピースは、ストリップ形態でパッケージされかつ少量の製品を収容する小ビンといったに形成される場合には満足である。

【0005】これに対して、比較的大量の製品を入れし、しかも上記のような破断端部分を含むディスペンサーエンドピースを備える容器が段ボール箱内にその箱内で動き得る自由度をもって収容される場合には、移送中に容器が箱の壁に衝突して端部分をエンドピースの軸線を横切る方向にのびる軸線の回りで傾斜させ、そして端部分を偶然に切り離させる程度まで傾斜させることがわかった。その結果漏れが生じて全バッチの商品を販売に適さなくし得る。

【0006】フランス国特許第2,331,491号には、軸線に垂直な傾斜軸線のまわりでの傾斜運動により本体から切り離されるようにされた破断端部分を備えたエンドピースについて開示されている。

【0007】米国特許第4,207,990号には、軸線のまわりでの回転により本体から切り離されるようにされた破断端部分を備えたエンドピースについて開示されている。

## 【0008】

【発明の解決しようとする課題】容易に開放できかつ比較的大量の製品を収納する容器に装着でき、輸送中に偶然に切り離される危険のない破断端部分を備えたディスペンサーエンドピースが要求される。

## 【0009】

【課題を解決するための手段】本発明の新規のディスペンサーエンドピースは、破断端部分が、第1の動きで取外しさせる第1のグリップ手段と、第1の動きと異なる第2の動きで取外しさせる第2のグリップ手段とを備えていることを特徴としている。

【0010】このようなエンドピースでは、片手又は両手で破断端部分を取外すことができ、従って容易に使用することができる。

【0011】好ましい実施の形態においては、破断端部分は、軸線のまわりの回転に応じて破断でき、破断端部分の少なくとも一側部分は、使用者が指で破断端部分をしっかりと握れるように、少なくとも部分的に、破断端部分の脆弱領域のレベルの下方へのび、ディスペンサーエンドピースの軸線のまわりで回すことができ、また破断端部分の横方向部分は、使用者が指で十分にしっかりと握れるようにディスペンサーエンドピースの軸線にほぼ垂直にのび、ディスペンサーエンドピースの軸線に垂直な軸線のまわりでの傾き運動により、破断端部分を切り離すことができる。

【0012】好ましくは、破断端部分の側部分は、少なくとも部分的に、脆弱領域のレベルの下方へのびている。

【0013】破断端部分の一つ又は複数の側部分は、少なくとも部分的に、脆弱領域のレベルより下方へのび、もはや全体としてエンドピースの本体と一直線ではなく、例えばエンドピースの両側に配置されるので、端部分は脆弱領域を越えて短い距離のびるように構成され得る。

【0014】これにより、端部分が輸送中に偶然に破断する危険は低減される。

【0015】さらに、ディスペンサーエンドピースと嵌合した容器の軸線方向寸法は相対的に小さいままであり、従って、箱の寸法を低減でき、すなわち箱内の容器の容器の動きを制限するスペーサーを受けるために利用できる空間をより大きくできる。

【0016】特殊な実施の形態では、上記側部分は横方向部分に接続され、しかも全体が上記横方向部分の頂面のレベルより下方へのびている。

【0017】好ましくは、横方向部分の頂面(22)は実質的に平面であるかまたは僅かに外側に凸状であり、横方向部分の形状は有利には通常平坦である。

【0018】なお特殊な実施の形態では、横方向部分は上から見て円形輪郭をもち、有利には通常ディスク型である。

【0019】有利には、ディスペンサーエンドピース

は、接合平面に配置されしかもエンドピースの本体の各側に少なくとも部分的にのびている二つの直径上相対したフィンを備えている。

【0020】好ましくは、横方向部分は、エンドピースの軸線上で見て、エンドピースの本体の頂端部より広く、好ましくは少なくとも三倍広く、それにより、エンドピースの軸線に垂直な軸線のまわりでの傾き運動を与えることにより端部分を切り離すことができるように使用者は十分にしっかりと握れる。

【0021】従って、使用者が片手をあけるか又は両手をあけるかに関連して、端部分は、上記の側部分を両手で回すことにより又は一方の手が利用できない場合には片手の親指で端部分を傾けさせることにより簡単に取外すことができる。

【0022】特殊な実施の形態では、上記一つ又は複数の側部分は、破断可能な材料のブリッジによってエンドピースの本体に接続される。これらのブリッジは、特にエンドピースの軸線に垂直な軸線のまわりで端部分を相対して傾かせることにより端部分の性能を高めて偶然的取外れに耐えるようにしている。

【0023】好ましい実施の形態においては、各側部分の頂縁部は外方且つ下方へ傾斜している。

【0024】また、本発明は上記のディスペンサーエンドピースを嵌合した容器を提供する。

【0025】本発明の他の特徴及び利点は本発明を限定しない実施の形態についての以下の説明及び添付図面を参照することにより明らかとなる。

## 【0026】

【発明の実施の形態】図1～図3に示すディスペンサーエンドピース10は、プラスチック材料例えばポリプロピレンを射出成形によって単一ピースとして構成される。

【0027】エンドピース10は、軸線Xのまわりの管状本体11を有し、この管状本体11の頂部分は実質的に円錐形であり上向きに収束している。管状本体11の円錐の頂点には破断端部分20を備えている。

【0028】この破断端部分20の中心領域21は通常ディスク型であり、頂面22は実質的に平面状であり、軸線Xに垂直であり、そして脆弱領域24を画定している薄い環状壁23を介して本体11に接続されている。

【0029】中心領域21の凸状底面27は本体11の頂端部と共に薄い壁23のまわりに環状溝25を形成している。

【0030】二つの直径上相対したフィン26は中心領域21の凸状底面27に接続され、そして図2及び図3に特に詳しく見られ得るように、本体11の各側に下向きにのびている。

【0031】これらのフィン26は全体として中心領域21の頂面22のレベルより下方に位置し、そして一部脆弱領域24のレベルより下方にのびている。

【0032】例示した実施の形態では、これらのフィン26はディスペンサーエンドピース10の接合平面に形成されている。

【0033】これらのフィン26はディスペンサーエンドピース10の本体11の軸線X上にないが、これらのフィン26は、使用者が軸線Xのまわりで回転させることにより端部分20を分離出きるように配置されている。

【0034】本体11の底端部には、容器首部の外側ねじにねじ込まれる第1の内側スカート13及びねじ係合を締付けると首部の内側表面に対して密封的に支持する密封用の第2の内側スカート14が設けられている。

【0035】当然、本発明の範囲を越えずに、ディスペンサーエンドピース10は、容器に嵌合される部分である代りに容器の本体と一体に構成され得る。

【0036】容器内に収容した製品を分与するために、使用者は片方の手で容器をもち、もう片方の手でフィン26を握り、軸線Xのまわりで端部分20を回動させることにより、薄い環状壁23を破り、製品を通すことのできるオリフィス28を画定する。

【0037】変形例では、使用者は、軸線Xに垂直な軸線のまわりで片手の親指で中心領域21を上向きに回転させることにより片手で端部分20を分離できる。

【0038】図4には、変形した実施の形態を構成しているディスペンサーエンドピース10'を示し、このディスペンサーエンドピース10'は、フィン26'が端部分20'だけでなく、最初の使用時に破断する材料のブリッジ30を介してエンドピースの本体にも接続されている点で図1～図3に示す実施の形態と異なっている。

【0039】これらのブリッジ30は軸線Xに垂直な軸線のまわりでの端部分20'の傾斜に相対している。これにより、端部分20'が偶発的に切り離される危険は低減される。

【0040】当然、本発明は上記の実施の形態に限定されない。特に、フィンの数を増やしたり、フィンの形状

を変えたり、端部分の中心領域の形状を変えることができる。

【0041】例として、図5には、中心領域21'が凸レンズ形状のものであり、その頂面32'が外側方向に僅かに凸状である変形した実施の形態を構成しているエンドピース10'を示している。

【0042】フィン26'は、それらの頂縁部31'が外方かつ下方へ傾斜している点でフィン26と異なっており、それにより、フィンと外側包装体との接触の危険をさらに低減し、従って破断部分が偶発的に破断される危険を低減する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明のディスペンサーエンドピースの概略斜視図。

【図2】図1のディスペンサーエンドピースの側面図。

【図3】接合平面におけるディスペンサーエンドピースの軸方向断面図。

【図4】ディスペンサーエンドピースの変形実施の形態を示す、図2と同様な側面図。

【図5】本発明の別の変形実施の形態を示す、図2と同様な側面図。

【符号の説明】

10:ディスペンサーエンドピース

1 1 : 管状本体

13: 第1の内側スカート

14: 第2の内側スカート

20: 破断端部分

## 2 1 : 中心領域

22:頂面

23: 薄い環状壁

## 24：脆弱領域

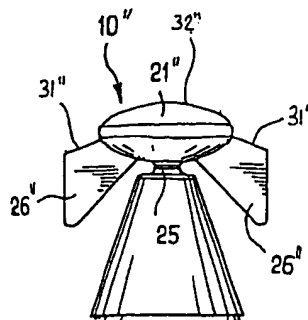
25:環狀溝

26:フィン

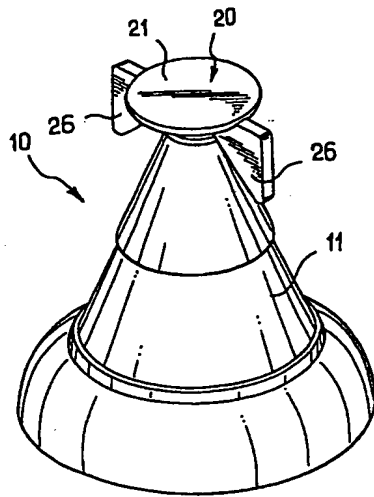
27:凸状底面

28:オリフィス

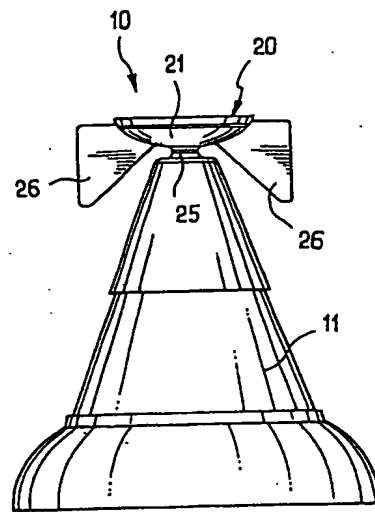
【図 5】



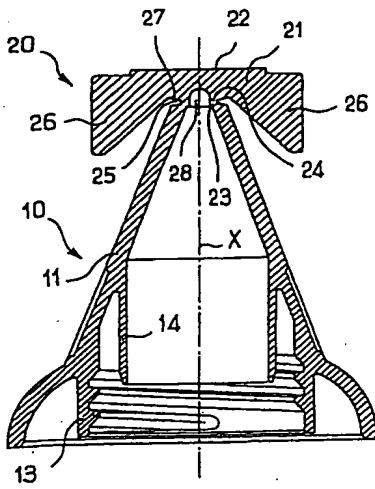
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

